

丸い頭のひみつは？

イルカの体のしくみ

イルカは、「ハクジラ」のグループのクジラのなかまです。口の中にはたくさんの歯がならんでいて、この歯で魚やイカなどをつかまえて食べます。また、イルカの頭の中には、「超音波」というとくべつな音をだすしくみがあり、深くて暗い海でも魚を見つけることができます。

頭の骨

中にある脳を守る。イルカの脳は体のわりに大きく、人間とおなじぐらいふくざつにできている。そのためイルカはよく「頭がいい」といわれる。

鼻の穴（噴気孔）

鼻の穴から肺につながる「鼻道」には、いくつかのひだや、ふくろがある。イルカは、このひだやふくろにためた空気を使って、「超音波」とよばれる人間にはきこえない、とても高い音から低い音まで、いろいろな音をだす。

(➡p.22～23・p.24)

ハンドウイルカ

歯

先のとがった歯が、上あごと下あごに、それぞれ50～60本ある。(➡p.18)

脂肪のかたまり（メロン）

イルカの丸い頭の中には、頭の骨の外側に、「メロン」とよばれる脂肪のかたまりがある。メロンは、鼻道からでた音の伝わる範囲を調整することができる。

(➡p.22～23)

肺

空気を吸いこんで、肺呼吸(➡p.26)をする。

肩甲骨

胸びれの筋肉をささえている。

胃

4つに分かれている。おなじハクジラのグループのなかには、オウギハクジラ(➡p.68)のように、10個以上に分かれた胃をもつ種類もいる。(➡p.20)

ろっ骨

肺や心臓が入る空間のかべをつくっている。関節がやわらかく、よく動く。

胸びれ

中に、人間の腕とよく似た骨がある。指のような骨も5本ある。(➡p.14)

横隔膜

呼吸をするときに、肺の動きを助ける。

背びれ

中は脂肪の多いじょうぶな繊維でできていて、骨はない。速く泳ぐときに、まっすぐ進みややすくする役目がある。

腎臓

尿がつくられるところ。ぶどうのぶさのように小さな部屋に分かれている。体の中でできないものや、魚やイカなどにふくまれる余分な塩分などを、体の外に出すはたらきをする。

腸

消化した食べものから、栄養分を吸収する。腸の長さは、体長の5倍以上もある。大腸と小腸の区別はわかりにくい。

膀胱

腎臓でつくった尿をためておくところ。

背骨

泳ぐために必要なたくさんの筋肉をささえ、体の軸になっている。(➡p.14～15)

肝臓

魚などを食べて体の中に取りいれた栄養素を、体を動かすエネルギーや、骨や筋肉の部品などにつくりかえるなど、いろいろなはたらきをしている。

生殖器

オスもメスも、完全に体内にかくされ、肛門の前に1本のみぞがあるように見える。(➡p.70)

V字骨

心臓から尾びれに血液を送る太い血管を守り、尾びれを動かす筋肉をささえるための骨。ハンドウイルカは、20個近くある。

肛門

ふんが出るところ。ふんは水っぽく、かたまりにはならない。水中にひろがって、けむりのように見える。(➡p.61)

尾びれ

背びれとおなじく、中に骨はない。ぴんとはっていて、しっかりと水をかくことができる。

ハンドウイルカ

「ハクジラ」のグループのなかで、体長がおおよそ4mより小さいものを、「イルカ」とよぶことが多い。ハンドウイルカは、イルカのなかではわりあい大きい種類で、「バンドウイルカ」とよばれることもある。